

令和6年度 蓮沼小学校評価集計結果



I 自己評価

(1) 学校の教育目標

よく遊び・よく学ぶ はすぬまっ子

◇ 児童と先生の合い言葉「あ・そ・べ」： あいさつ そうじ べんきょう

(2) 本年度、重点的に取り組む目標や計画

①豊かな心→「道徳授業」「豊かな人間関係づくり」「あいさつの励行」をとおして「思いやりや助け合いの心」を育てる。

(考え、議論する道徳授業の工夫・改善と縦割り班による遊びの実施、児童の生活アンケート「学校が楽しい」100%「あいさつができる」100%)

②確かな学力→教員の学習指導・授業実践の工夫・改善と家庭学習への指導の充実を図り、児童の学力の向上を図る。

(保護者・児童・教師アンケート該当項目80%以上、県学テで県平均越えが全科目の60%以上)

③家庭・地域との連携→保護者・地域人材・資源を活用した授業展開(全学年2回以上実施)及び情報発信(HP週2回以上更新・学校だより月2回以上発行)を積極的に行う。

(3) 評価項目の取組状況と達成状況

評価項目	結果	理由
豊かな心	B	考え、議論する道徳授業の授業研究を年3回、縦割り班による遊びを月1回実施し、思いやりや助け合いの心が育ってきている。
		児童の生活アンケート結果は、「学校が楽しい」98%「あいさつができる」、99%であった。
確かな学力	C	アンケート結果は保護者・児童・教師ともに学習の理解度の項目では、期待値以上であったものの、個別支援や家庭学習、読書活動については課題である。
		県学テで県平均を超えた科目は82%であった。
家庭・地域との連携	B	全学年、地域人材・資源を活用し、児童と保護者・地域の方と一緒に体験する授業を2回以上実施できた。また、地域ボランティアの方と連携し、毎週読み聞かせを実施した。
		HP週2回以上更新、学校だより月2回以上の情報発信をした。

(4) 学校評価の総合的な評価

評 価	理 由
B	重点項目を概ね達成することができた。特に豊かな心の育成では、自ら進んであいさつができる児童が増え、思いやりや助け合いの心も育ってきた。確かな学力に関しては、県学テの点数は県の平均を上回った学年・教科が多かったものの読書や家庭学習の取組に課題が見られた。

※ 3 と 4 の項目の評価結果の内容

S	目標を十二分に達成し、期待をはるかに上回る成果をあげた
A	目標を十分に達成し、期待された以上の成果をあげた
B	目標を概ね達成し、期待された成果をあげた
C	目標の達成が不十分であり、期待された成果に及ばなかった
D	目標を達成できず、通常の努力で得られるはずの成果が得られなかった

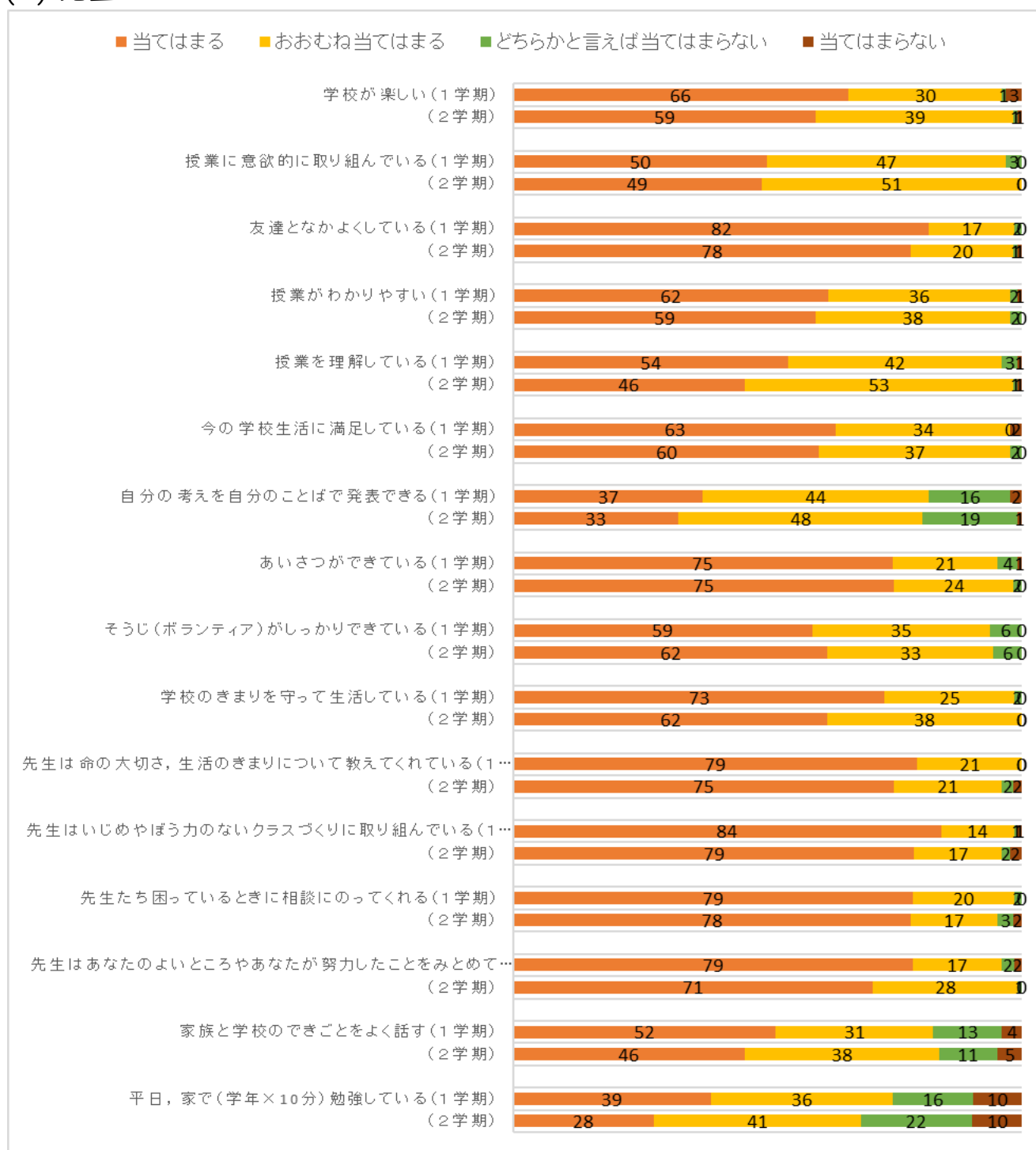
(5) 今後の取り組むべき課題

読書の 2 極化への対応	読書が苦手な児童への対応策を検討する。
学力の 2 極化への対応	授業支援（個別の対応）と家庭学習の進め方の指導の強化を図る。

2 前期・後期学校評価アンケート結果

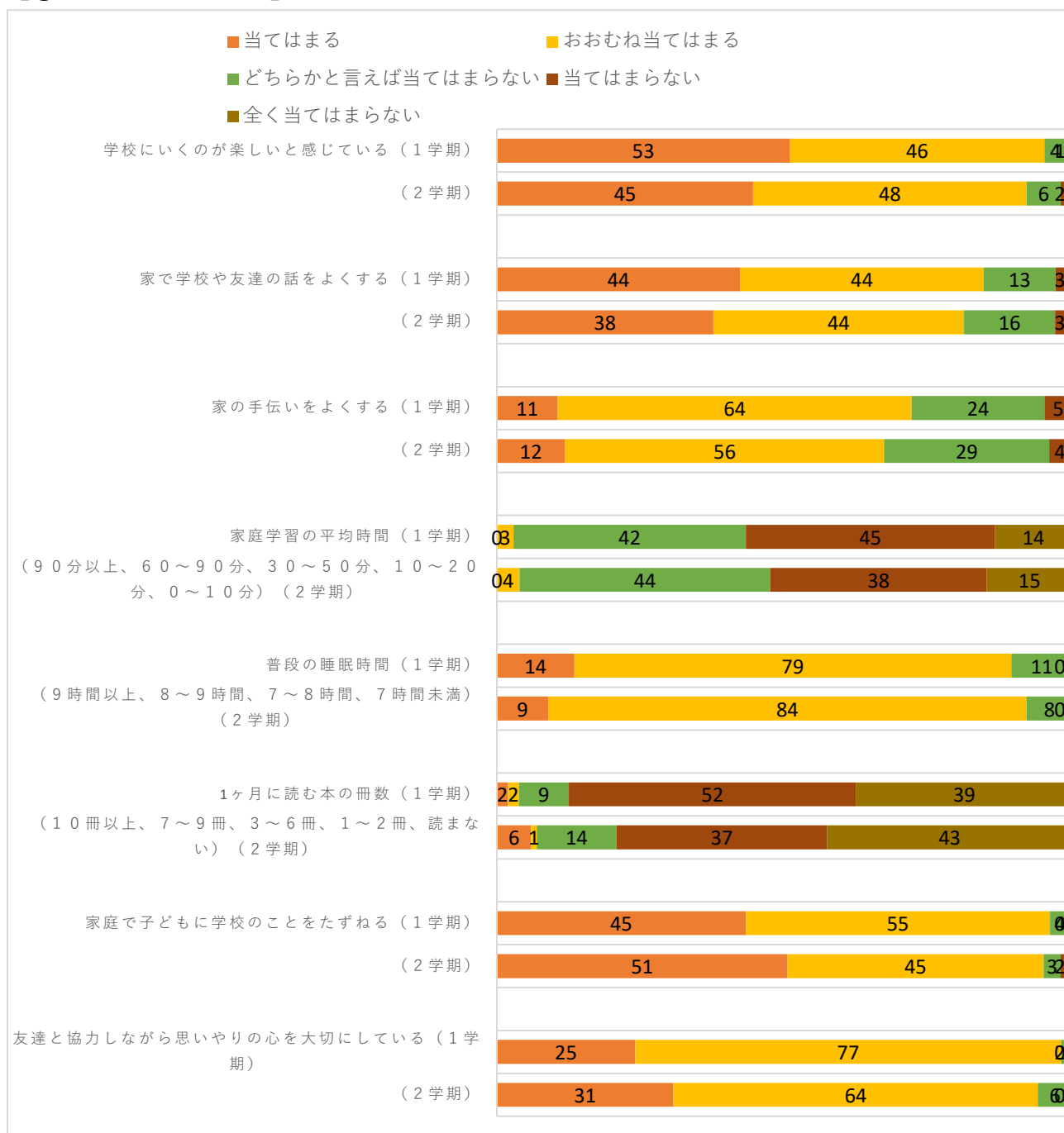
※数字は割合

(1) 児童アンケート

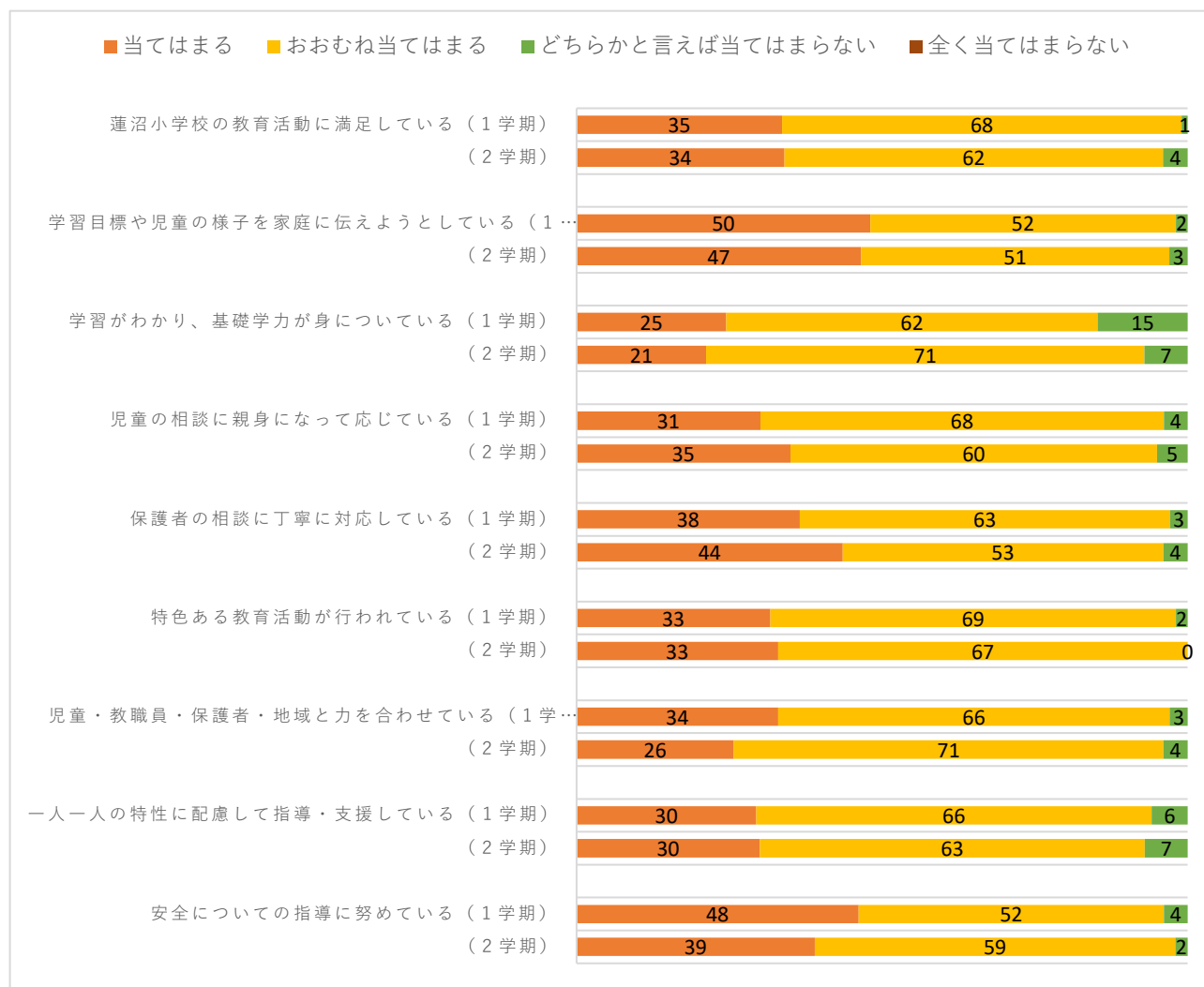


(2) 保護者アンケート

【①お子さんについて】



【②学校について】



【③考察】※「よく当てはまる」「おおむね当てはまる」を併せて肯定的意見と捉える。

☆児童アンケートから

○前期・後期とも多くの項目で肯定的な評価となっている。今後も、「学校は楽しい」、「意欲的に授業に取り組んでいる」と児童が感じれるように支援をしていきたい。

●「自分の考えを自分の言葉で発表できる」、「学年×10分勉強している」の項目は依然として、評価が低くなっている。家庭学習については、保護者の評価も低くなっており、蓮沼小の課題の1つである。今後、学年末に向けて、家庭学習の仕方について、再度検討していく必要がある。

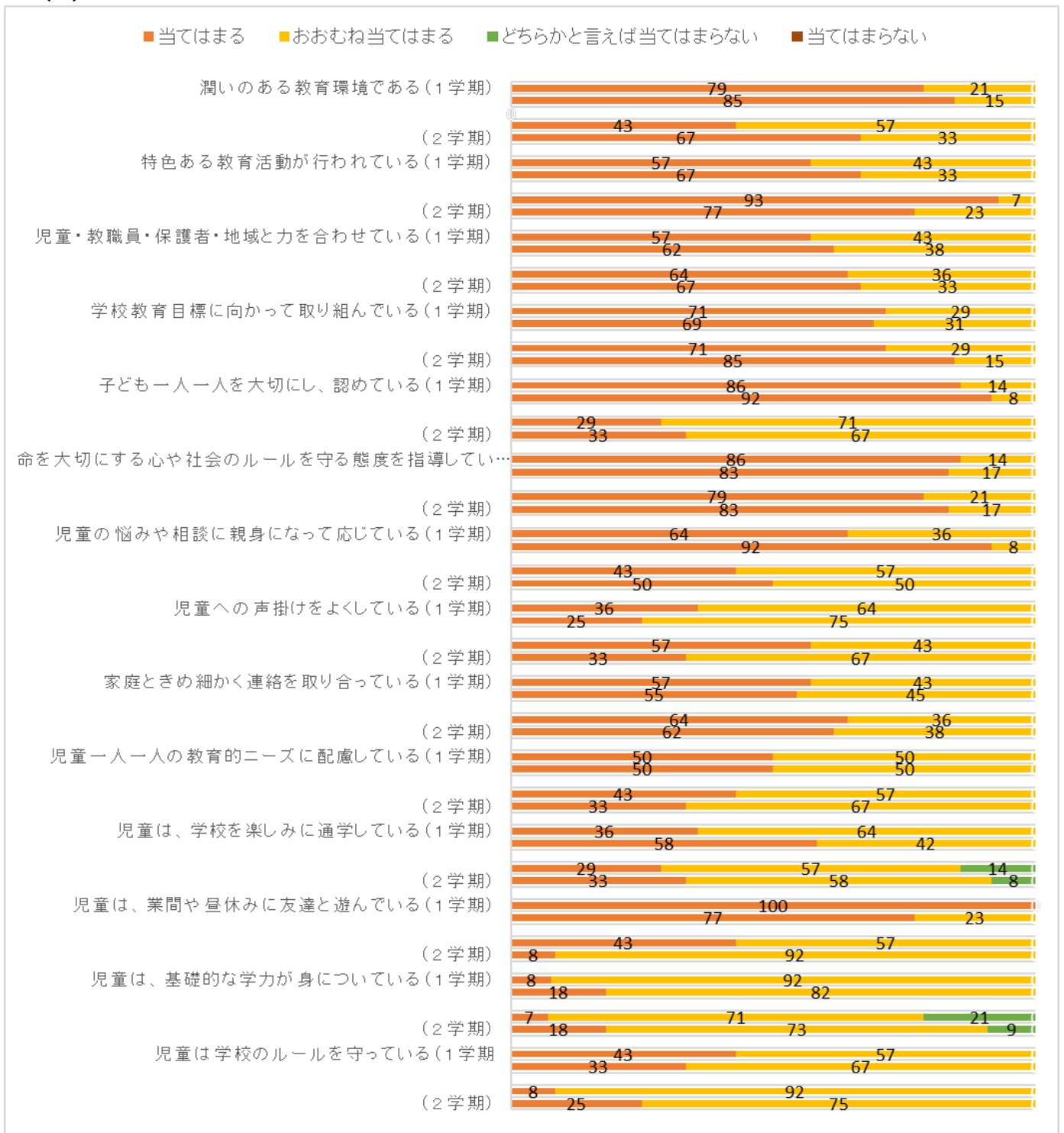
☆保護者アンケートから

○前期・後期で多少の増減はあるものの、多くの項目で肯定的な評価となっている。今後も、子ども達が楽しく学校生活を送る中で、個に応じた対応をし、基礎学力を身につけさせたり、思いやりの心を大切にさせたりしていきたい。

●「家庭学習の平均時間」についても、前期同様の結果となっている。家庭学習の時間が20分以下の児童が半数となっており、目標である「学年×10分」は依然として達成することができていない。基礎基本の定着には、家庭学習も必要であることから、少しでも家庭学習の時間が増えるように、家庭と連携をしていく必要がある。

●「1か月に読む本の冊数」についても、前期同様の結果となっている。約80%の児童が、2冊以下となっている。以前、学校だよりで、蓮沼小の読書活動の取組について御紹介したが、まだまだ読書への意識は、個人差が大きくなっている。こちらについても、家庭学習同様、家庭と連携した取組を模索していきたい。

(3) 職員アンケート



【考察】※「よく当てはまる」「おおむね当てはまる」を併せて肯定的意見と捉える。

「読書」、「家庭学習」に関する評価が低くなっている。「読書」については、図書担当を中心に読書の呼びかけ等を行っているが、なかなか改善しない。今後、他にどのような活動ができるのか検討していく必要がある。「家庭学習」については、保護者・児童・職員の共通の課題となっている。基礎的な学力をつけるためにも、家庭学習は大切なものである。家庭学習の出し方等を検討し、各家庭へ協力を呼びかけていきたい。

蓮沼小学校の合言葉である。「あ（あいさつ）・そ（そうじ）・べ（べんきょう）」を職員がより意識し、子ども達への指導・支援を今後も行っていきたい。